

卒業研究		演習	教授 白井 雅人	
科目カテゴリー	国際ビジネス学科の必修科目	科目ナンバリング	21300401	

1. テーマ

ICT（情報通信技術）への理解と社会に通用する創造的発信力の獲得

2. ゼミのねらい・概要

情報技術を含む広義のメディアおよびその周辺領域に関する個別具体的研究、もしくはプログラミング等によるコンテンツの制作実践のいずれかを各自が選択して自主的に進め、最終的に卒業研究にふさわしい成果物としてまとめる。各自の研究の調査研究結果・進捗状況などの報告を随時行い、計画段階から完成までプレゼンテーションとディスカッションを繰り返しながらその内容をブラッシュアップしてゆく。自ら選択したテーマについて研究し、1年をかけてまとめあげることを通じて、大学における4年間の学業の集大成としての成果をかたちとして残すことを目標とする。

3. ゼミ計画

<p>〈前期〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 卒業研究とは 3. 研究テーマの選択 4. 研究テーマの決定 5. 研究テーマ発表 6. 資料収集の方法 7. 資料の分析 8. 前期中間発表 第一グループ 9. 前期中間発表 第二グループ 10. 前期個別指導 第一グループ 11. 前期個別指導 第二グループ 12. 論文における文章作法 13. 参照資料の文章化の方法 14. 脚注と文献の書き方 15. 前期課題最終チェック 	<p>〈後期〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 前期課題報告 第一グループ 2. 前期課題報告 第二グループ 3. 後期個別指導 第一グループ 4. 後期個別指導 第二グループ 5. 卒業研究のまとめ方 6. 卒業研究の体裁 7. 後期中間発表 第一グループ 8. 後期中間発表 第二グループ 9. 後期個別指導 第一グループ 10. 後期個別指導 第二グループ 11. 書式的確認 12. 最終チェック 13. レジюме作成 14. レジюмеチェック 15. 最終講評
---	--

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

各自の設定したテーマについて、参考文献や資料等を収集し、それらを読んで十分に研究する。また授業における発表（プレゼンテーション）においてその概要を発表できるよう、発表資料等を準備する。最終的には、卒業研究（論文）としてこれを執筆してまとめあげ、期日までにこれを完成させる。これらは基本的にすべて授業外の時間に行うものであり、週に3時間以上が必要である。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

発表（プレゼンテーション）については、その都度個別に講評を行う。また個別指導の際にも研究の内容や進行について個別にコメントを行う。最終的な卒業論文についても、不足点などを含む講評を面接形式で個別に行う。

6. ゼミにおける学修の到達目標

自らの関心に応じて研究テーマを設定し、その概要・内容を発表できるようになる。また研究の手法を身につけることによって進行した研究内容をレベルに応じて発表できるようになる。さらに最終的に卒業研究として、4年間の集大成としてふさわしい研究成果を自らの研究としてまとめあげ、完成させる。

7. 成績評価の方法・基準

ゼミに対する取組み姿勢（20%）、授業内課題（30%）、および提出物（卒業論文）（50%）

8. テキスト・参考文献

教科書として、アカデミック・ジャパニーズ研究会（2015）『大学・大学院留学生の日本語④論文作成編』アルク，を使用する。その他必要な資料を配布するほか、参考文献については、その都度指示する。

9. 受講上の留意事項

出席のみならず、ゼミへの積極的な関与が求められる。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。